

こつざい 交差点

塚原石産興業 専務取締役

塚原 基成



当社の取り組み「働き方改革」の内、「労働生産性の向上」という観点でもう一例挙げさせて頂きたいと思います。「骨材の輸送改革」です。

長野県における昨年の台風19号被害は甚大なものでした。この様な緊急時のみならず平常時にお

ける需要に対して、運転手の高齢化、輸送コストの高騰、遵法輸送の徹底等によって、慢性的に輸送力が不足している現況を打破すべく、当社では昨年より県下初のトレーラーダンプによる輸送を開始しました。

このトレーラーダンプは国産トラックターヘッドとドイツ製トレーラーで構成され、特にベッセルは特殊な構造によって軽量性と強靭さを両立し、その最大積載量は28・9

アグリゲイト・エンジニアリング®



です。これにより1人で従来比約3倍の骨材を運ぶことができ、時間あたり輸送量が飛躍的に向上しました。従って供給量に対し輸送時間が大幅に短縮可能なためCO₂排出量削減や渋滞緩和など社会環境への負荷も同時に低減させ、クリーンかつスマートな輸送を達成することができま

す。当社に最適なシステム開発を継続的に行っており、現バージョンでは車両ナンバー認識とトラックスケールが連動し、車両情報と出荷情報が瞬時に紐付けられる事で入力作業の最小限化等が図れ、より正確で迅速な出荷と受入および無人出荷への対応が可能となりました。

さらに車両位置情報と納入場所への経路情報等を組み合わせる事によって、どの車両をどの出荷先に仕向けるのが最適かという配送計画をリアルタイムに作成する機能を追加しています。ノウハウの蓄積により独創性があ

りながらも、個々の業務が属人化せず「誰もが運用することができる」インフラを目指し、将来的には生産管理システムとの融合も進めていきたいと考えています。当社の行動指針は「アグリゲイト・エンジニアリング®」です。エンジニアリングは技術という意味で広く使われていますが、当社にとってのエンジニアリングは、既にある技術をそのまま使用する事ではなく、自らに最適な「技術を編み出していく総合力」と考え、先述の様々な業務改革に活かしています。